

令和元年度第1回亀岡中学校ブロック協議会 議事録要旨

■日時

令和元年7月24日(水) 午後7:30~午後9:30

■会場

ガレリアかめおか 響ホール

■議事

- 1 開会
- 2 亀岡駅北土地地区画整理事業の経過報告
- 3 意見交換
- 4 閉会

■意見交換等発言内容

座長 (教育総務課長)	次第の2「亀岡駅北土地地区画整理事業の経過報告」について事務局から説明いただきたい。 <事務局説明>
座長	今、事務局から次第「2 亀岡駅北土地地区画整理事業の経過報告」について、これまでに関係部署から状況の聞き取りを行った内容の説明があった。何か質問等があればお願いしたい。
委員	三点ある。①現在、進められている篠町の開発が駅北の校区に影響があるかどうか ②駅北地区は道を挟んで亀岡地区中部と亀岡地区西部で分かれている。今回の資料が西部と中部を一緒にした数字では議論にならない ③亀岡中学校は今後最大24クラスになるのではないかと。
事務局	①住宅地ではなく工業地域になるときいているので今回は影響はないと考える ②駅北地区を一体的に整備されるが、どのような自治会の分けになるかは実際に人が住んでからでないと決めることができないと聞いている。住宅を購入する判断材料として校区や通学距離が挙げられ、そう考えた時に地域割りが決まってから校区を決めるのはかなり無理がある。そのような難しい状況の中で今回一体にした形で戸数を示した。 ③現在算出している児童生徒数は令和6年までのものであるが令和10年まで

	の推移をみると20クラスぐらいになる。
委員	土地というのは神社が決めており、市が行政区を決めるというものではない。道路で地域を分けて、自治会や校区も決めるべきではないか。
事務局	元々田畑であり、住宅がなかった所を今回一体的に整備をされて一つの新しい町ができるというイメージを持っていただきたい。この状態で数字をいれた。
委員	従前の地番での戸数を示したうえで議論を進めるべきではないのか。篠地区の開発の件だが、キラリ☆亀岡おしらせには準工業地域と住宅地が混在しているように書いてあったと思うがどうか。
事務局	詳細な数字は把握できていない。組合から提供いただいたものが今示した数字である。これから組合と調整して情報を提供してもらえるか協議する。篠地区の開発を担当している部署によると住宅建設の計画はない地域と聞いた。改めて確認は行う。
委員	駅北の黄色の地域を中心に住宅ができた場合、通学路はどのようになるのか。
事務局	どこの学校に行くかによって変わるが三通りの候補はある。保津橋を通過して駅の南側に出るルート、駅の南北の自由通路を通るルート、現在建設中のJRの下側をくぐって病院等があるところに接続するルートの三つが挙げられる。南北自由通路を通るルートは通勤ラッシュと重なるため検討していく必要がある。ほかの二つのルートについては距離の問題や安全対策の問題はあるが一定の通学路に充てることはできると考えている。
委員	この開発によって新しくお住まいになられる方のポイントになると思うが、今回の会議で校区等を決めた場合、組合に受け入れてもらえるのかどうか意見調整はしているのか。
事務局	直接ではないが担当部署を通じて組合の意見を一部頂いている。JRの南側も含めて一体的な新しい町として考えていきたいと聞いている。一度にすべて建つわけではないことと、どのエリアにいつ建設されるかもわからないので担当部署とは連携していきたいと考えている。
委員	亀岡地区東部（上矢田町、中矢田町など）の状況はどうなっているのか。
事務局	地域からはつつじヶ丘小学校から亀岡中学校で当面はいきたいと聞いている。当初、教育委員会はつつじヶ丘小学校から東輝中学校の提案をしたが地域からは教育委員会の考えは理解ができるが、亀岡小学校から亀岡中学校へ校区を戻

	してほしいと言われており、状況は動いていない。
委員	亀岡地区東部の町内の役員はほぼ全員亀岡小学校へ戻して亀岡中学校に行かせたいという意見である。一方でこども会の役員はほぼ全員が現状維持で何とかしてほしいという意見である。
教育長	地域の思いや学校の思いもある中で教育委員会としても数年後を見据えて地域の方や保護者の方々に説明をしたいと思っている。その中でも主として考えていく必要があるのは子ども達のことである。今回のこの場に子ども達と一番接している現場の先生が出席されているいい機会なので意見をいただきたい。
委員	提示していただいたデータを見ているとクラスが21になる可能性がある。なかよし学級が2クラス分使っているので実際には18クラスしかない。なかよし学級の配置をどうするか検討してもらえれば子どもたちに負担なく学習環境が整うと思う。 子どもたちは地域で育つ影響が大きいので同じ学校なのに地域、自治会、子ども会が違うという不自然な区割りは避けていただきたい。自然な環境で教育を受けさせたい。
委員	子ども達のことを考えた場合人数が増えるのは嬉しい。課題としては増える分の受け皿と子ども達が安心して通える通学路の整備であり、加えて放課後児童会の教室をどうするか。
委員	中学校現場としては小中一貫校になれば、教育的視点、生活的視点からメリットが大きいので同じ小学校から同じ中学校へ来てくれることを望む。
委員	通学路の問題も地域で育てるのもそうだが、地域の開発はどのようなビジョンで進めているのか。道路で分けて考えているのか、一体として考えているのか。
事務局	土地区画整理事業組合は一体的に街づくりを進めていきたいと担当課から聞いている。
委員	小さい子どもが通うので安全な通学路を子ども視点で考えてほしい。何よりも安全第一なので子どもが安心して通える通学路整備を意識してほしい。
委員	昔に亀岡小学校からつつじヶ丘小学校へ校区を変更した時と今は違うということを経験した住民に説明しないと当時の重い気持ちは拭えない。時間をかけて考えていかざるを得ないのではないか。
委員	学校を決めるのは本来親である。どの学校に行かせるのか、どこに家を建てる

	<p>のか、どんな教育を受けさせたいのか、そのような判断をするのはこちらではない。駅北の組合は住宅を建設したところは売りつくしたいという考えがあるはずなので、それに応えられるような教育を受けられる学校を作っていくべきではないか。校区が優先ではなく、子ども中心に、子どもが行きたいと思えるような学校を作り上げていくのが最優先ではないか。</p>
委員	<p>本来街があってそこから学校を選ぶことになるが、何もないところ、新しいところから決めないといけないので、様々な意見を集約して教育委員会で素案を出してほしい。その上で議論しなければ何も前進しない。子どもにとって通学路はどこが安全か、教育面では何がいいのか、学校設備は何が必要になってくるのか、その上で各立場から議論すべきだと考える。</p>
座長	<p>本日頂戴したいくつかの意見や組合から提示いただける資料があれば、それらを基に教育委員会の方で素案を提示できるようにしていきたいと思う。駅北の住宅販売に関しては来年からと聞いているので、それに向けてスケジュールも調整し、ブロック協議会も何回か開催することになると思うのでこれからもよろしくお願ひしたい。本日のところは、会議を閉じさせていただく。</p>